

長期目標 (学校ビジョン)		技術を研ぎ、身体を鍛え、心を磨くことをおとして、優れた知性や創造性を身に付けたたくましい力と、感動したり他者を思いやるあたたかな心を兼ね備えた、健全で個性豊かな人材の育成をめざす。		今年度の重点目標		1. 学力の向上 2. 豊かな人間性の育成 3. キャリア教育の充実と進路実現	
評価項目		評価の具体項目		年 度 当 初		評 価 結 果 (10)月	
		現 状		目 標 (年度末の目指す姿)		目 標 達 成 の た め の 方 策	
		経 過 ・ 達 成 状 況					
		評 価		改 善 方 策			
1	学 力 の 向 上	① 授業改革と 学力の向上	【授業改革】 ・各科・教科によるアクティブ・ラーニング(AL)を用いた公開授業の実施 ・家庭学習時間は1年生95.6分、2年生83.5分、3年生73.8分は例年並み ・学校評価アンケートによる生徒の授業満足度は概ね良好(72%) 【学力の育成】 ・基礎力診断テストについては基礎力不足層(Dゾーン)が全学年ともに約50%を占有、基礎学力の定着に課題 ・全国工業高校校長会主催標準テストについては成績向上に課題 【学習環境の整備】 ・ロッカー内およびロッカー上の整備が向上 ・授業前の着席と挨拶は改善 ・教科書やノートなど、教材の授業前準備に課題	【授業改革】 ・ALを実践する職員数の増加 ・進路を切り開く主体的な学びの実践 ・ICTを活用した分かりやすい授業づくり ・80%以上の生徒が授業に満足と回答 【学力の育成】 ・進路模試において、SS50以上の生徒が各学年で10名以上(理数工学科) ・基礎力診断テストにおける、基礎力不足層(Dゾーン)の減少 ・専門教育に対応する数学力の定着 【学習環境の整備】 ・教室美化、授業準備と挨拶の徹底 ・図書館のWi-Fi環境の整備、タブレット端末の活用と研修会の実施 ・ICT環境の整備	【授業改革】 ・ALの理解を深め、実践につながる研修会を2年2回実施 ・他校で開催される学習理論研修への参加を勧奨 ・プレゼンテーションソフト及びタブレット端末の利用促進 ・授業評価アンケートの結果に基づく授業改善の実施 【学力の育成】 ・進路補習の計画的実施 ・基礎力養成に向けた放課後補習及び個別指導を、各科・各教科で実施 【学習環境の整備】 ・図書館のWi-Fi環境の整備、タブレット端末の活用と研修会の実施 ・図書館のWi-Fi環境の整備	【授業改革】 ①7月にAL研修会の実施、学校全体でALの理解を深める取り組みの実施 ②他校でのALの公開授業の案内を掲示・連絡によって教職員に勧奨 ③家庭学習時間は1年生108.8分、2年生99.7分、3年生131.5分と例年より増加 ④授業評価アンケートを各科で集約、それに基づいた改善方針の協議 【学力の育成】 ①基礎力診断テストでは、年度当初と比較しDゾーン(基礎力不足層)の生徒の割合が1年生で2%減、2年生で4%減、3年生で7%減と着実に基礎力アップ ②放課後の進路補習を計画に基づいて実施 ③各科で放課後補習を適宜実施、基礎力定着の推進 【学習環境の整備】 ①5Sあさひによる教室整備で教室美化に努め、落ち着いた授業に入る準備の奨励 ②図書館のWi-Fi環境の整備	【授業改革】 ①第2回学力向上研修会の実施、その際、公開授業を全クラスに拡大 ②引き続き、他校での公開授業の案内・連絡を行い、教職員に勧奨 ③パワーポイント等のプレゼンテーション教材とともにプリント作成を工夫して、生徒の興味関心の喚起 ④授業アンケートに基づく改善方を継続して実施 【学力の育成】 ①進路のための補習の充実 ②基礎学力の向上・定着のための補習の継続 【学習環境の整備】 ①5Sあさひの徹底、教室整備と授業規律の向上 ②引き続き、Wi-Fi環境整備とICT活用の推進
		② 主体的な学 習態度と実 践力の育成	【生徒の学習状況と学習意欲の喚起】 ・自宅学習時間の増加による主体的な学習意欲の向上(自宅学習時間:理数工学科124分、工業学科75分) ・課題提出等の期限厳守に課題 ・生徒の進路目標の早期設定に課題 ・担任・教科担任で進路面談・声かけ等を実施 ・シラバスにより評価標準を生徒に周知	【生徒の学習状況と学習意欲の喚起】 ・自宅学習時間の増加による主体的な学習意欲の育成(自宅学習時間:理数工学科150分、工業学科80分) ・基礎学力の向上 ・具体的進路目標の設定による進路意識の向上 ・進路を意識した座学と実習の効果的な授業展開	【生徒の学習状況と学習意欲の喚起】 ・家庭での情報端末の利用を減らし、自宅学習時間を確保 ・週末課題等の定期的且つ適度な量の課題提示 ・学びの延長としての資格検定受験の推奨 ・進路実現のための資格検定取得の奨励 ・継続的な個別面談による進路意識の向上	【生徒の学習状況と学習意欲の喚起】 ①自宅学習調査:理数工学科144.7分、工業学科104.5分と例年より増加 ②自宅学習調査を用いた家庭での情報端末使用度の把握 ③学びの延長としての資格検定受験の奨励 ④各科・各教科による資格・検定の受験の奨励 ⑤年度当初及び夏休み明けに担任による面談を実施し、生徒の現状や進路希望を把握	【生徒の学習状況と学習意欲の喚起】 ①自宅学習調査の結果に基づいた各生徒への意欲喚起 ②継続して各科で適量の課題の適宜提示 ③引き続き、各科・各教科による資格・検定の受験の推奨、受験者に補習の実施 ④面談の推進と継続による生徒の学校生活と学習状況の把握
2	豊 かな 人 間 性 の 育 成	① 互いを尊重 する態度と 社会性 の涵養	【人権教育・性教育】 ・WYSH教育公開LHRを1年生で実施 ・性教育LHRを全学年で実施、他者の人権を尊重する態度の育成に課題 【ハイパー・QU、いじめアンケート等の活用】 ・職員研修で全職員に周知、クラス目標を設定 ・クラスづくり・LHR・面談等に結果を活用するも、生徒自身の自己理解に課題 ・いじめ問題に早期に対応、各教科でも人権教育を推進 ・生徒が相談しやすい体制を整備しているが、悩みを抱えている生徒は少なくないという理解 【指導力向上の職員研修】 ・7割の職員が人権教育に関する校外研修「一人一研修」に取り組んだが、LHR等への研修成果の還元課題 ・情報提供は速やかに実施	【人権教育・性教育】 ・人権意識が高揚し、他者の人権や存在を尊重できる生徒の増加 【ハイパー・QU、いじめアンケート等の活用】 ・自己理解が出来て、集団規律が順守できる生徒の増加 ・いじめが無く、学校生活を安心して送れる生徒の増加 ・悩みが相談しやすい雰囲気 の確立と、勉強が楽しいと思える生徒の増加 【指導力向上の職員研修】 ・一人一研修の参加率を9割以上 ・研修成果を教科やLHR等に還元	【人権教育・性教育】 ・人権教育LHRの事前研修の実施 ・WYSH教育公開LHRを1年生に実施 【ハイパー・QU、いじめアンケート等の活用】 ・ハイパー・QUを分析し、生徒理解とクラス運営に活用 ・いじめアンケート等を通じて、生徒の抱える悩み等を把握する等、関係分掌と情報を共有 ・教職員や外部関係機関との連携を強化、充実 【指導力向上の職員研修】 ・研修会や講演会の情報をこまめに情報発信し研修会への参加を促進 ・人権教育LHRの指導案の充実	【人権教育・性教育】 ①人権教育LHRの事前研修の実施 ②2年生に対して人権教育講演会の実施 ③性教育講演会の実施 【ハイパー・QU、いじめアンケート等の活用】 ①hyper-Qアンケート・職員研修会の実施 ②いじめ等に関するアンケートを実施、各事案についていじめ対策委員会を開催し対応 ③保護者面談の実施 【指導力向上の職員研修】 ①一人一研修 21人/65人(到達率32.3%、10月1日現在) ②人権教育LHRの指導案の充実	【人権教育・性教育】 ①公開人権教育LHRと公開WYSH教育LHRに向けた事前研修・事後研修の実施 ②生徒情報の把握に努め、各学年、他学年との連携・情報交換の実施 ③人権教育や特別支援の観点に立ち、教室環境の整備を職員全体での実施 ④研修会に向けたPTA人権教育部との連携 【ハイパー・QU、いじめアンケート等の活用】 ①第2回hyper-Qアンケート・職員研修会の実施 ②第2回、第3回「いじめ等に関するアンケート」の実施 ③家庭・地域・出身小中学校等との連携 【指導力向上の職員研修】 ①校内人権教育研修会(職員向け)を11月に実施 ②人権教育LHRの指導案の充実 ③校外の人権教育関係の研修への参加呼びかけ(スチューデント、個人案内等)
		② 健全な心身 と社会貢献 精神の育成	【基本的な生活習慣の確立】 ・「5S」、「あさひ」の考えは生徒・職員に浸透したが、生徒の主体的な取り組みに課題 ・挨拶は改善傾向にあるが、自分から挨拶できる生徒の割合は低調 ・学校は落ち着いて暮らすもの、ルール・マナーを守る規範意識の更なる向上に課題 ・規範検査で不適格となる生徒が全校で平均25.4名 ・正しい制服の着こなしが不徹底 【ボランティア活動】 ・活動が活性化しており、その流れの継承が必須 (平成27年度実績:テクノボランティア25名、「ダメ、ゼッタイ。」街頭キャンペーン15名、献血街頭キャンペーン21名、鳥取砂丘ボランティア除草8名、「あしなが学生募金」ボランティア7名、等) 【部活動、生徒会活動】 ・生徒会役員は各種活動に参加しており、その活動を各クラスに拡大することに課題 (平成27年度実績:高校生マナーアップさわやか運動、万引き防止広報活動、等) 【環境改善】 ・TEAS活動の目標はクリア、更に現状に合った目標を設定し、活動を継続 【安全教育】 ・昨年度、登下校時の自転車による事故が5件あり、交通ルール・マナーの遵守に課題 ・SNS(ソーシャル・ネットワーク・サービス)等の取り扱いに課題 ・携帯電話とスマートフォンの「校内での使用禁止」は概ね定着	【基本的な生活習慣の確立】 ・「5S」、「あさひ」に主体的に取り組める生徒の増加 ・いつでもどこでも誰にでも自分から挨拶できる生徒が8割 ・規範意識や社会で通用する行動や考え方を身に付けた生徒の増加 ・規範検査の不適合者数半減 ・正しい制服の着こなしの定着 【ボランティア活動】 ・ボランティア活動の参加者、昨年比10%増加 【部活動、生徒会活動】 ・各クラス役員、生徒会役員の参加行事数の増加 【環境改善】 ・廃棄物は2014年度比10%減、電力消費は2010年度比13%減 【安全教育】 ・交通安全やマナー等社会生活に必要な正しい知識の習得 ・登下校時の無事故 ・規範意識の向上とルール・マナーの実践力の向上	【基本的な生活習慣の確立】 ・「5S」、「あさひ」の考えは生徒・職員に浸透したが、生徒の主体的な取り組みに課題 ・挨拶は改善傾向にあるが、自分から挨拶できる生徒の割合は低調 ・学校は落ち着いて暮らすもの、ルール・マナーを守る規範意識の更なる向上に課題 ・規範検査で不適格となる生徒が全校で平均25.4名 ・正しい制服の着こなしが不徹底 【ボランティア活動】 ・ボランティア活動の参加者、昨年比10%増加 【部活動、生徒会活動】 ・各クラス役員、生徒会役員の参加行事数の増加 【環境改善】 ・標準、環境LHR、環境講演会等による教職員、生徒への啓発 【安全教育】 ・全職員による朝の交通指導の継続 ・各種安全教室の実施 (携帯マナー講習、自転車安全、非行防止・薬物乱用防止教室等)	【基本的な生活習慣の確立】 ①頭髪検査不合格者数は昨年度と比べ減少 ②カラーシャワーの抽出量が減少、制服の着こなしが改善、ネクタイ一本化の実施 ③昨年度導入した「学年・月」「学年指導」に効果 ④自ら挨拶できる生徒は年度当初より増加したものの、「8割」の目標は未達成 ⑤執行部の生徒による「強化月間目標啓発ポスター」の取り組みの実施 ⑥無許可自転車減少、駐輪マナーの向上 【ボランティア活動】 ①ボランティア活動の参加状況(ボランティア体験事業6人、「ダメ、ゼッタイ。」街頭キャンペーン5人、献血街頭キャンペーン7人、鳥取砂丘ボランティア除草5人、とっとりサイエンスワールド52人、「あしなが学生募金」ボランティア4人、鳥取防災フェスタ2人、またまの郷納涼祭ボランティア2人)現在のところ昨年度よりやや参加人数減 【部活動、生徒会活動】 ①部活動・生徒会活動の参加状況(部活動・生徒会活動)の参加者数は増加傾向にあるが、一部の部活動・生徒会活動の参加者数は減少傾向にある ②部活動・生徒会活動の参加者数は増加傾向にあるが、一部の部活動・生徒会活動の参加者数は減少傾向にある ③生徒会執行部主体の挨拶運動月2回の実施 ④多くの生徒が何らかの部活動に2部 【環境改善】 ①管理美化委員会によるゴミの計量実施 ②廃棄物、電力使用ともに環境改善目標を達成中 ③環境LHRの実施 【安全教育】 ①全職員による朝の交通指導の実施 ②各種安全教室の実施 (携帯マナー講習・自転車安全・非行防止・薬物乱用防止教室等) ③各種安全教室後にアンケート、感想文の実施	【基本的な生活習慣の確立】 ①頭髪検査指導の徹底 ②規範検査・職員研修等で指導方針の確認を徹底、認識を共有し、行動の一元化の推進 ③全校集会・学年集会・HR等での生徒への周知徹底 ④「学年ノート」のさらなる活用 ⑤全職員と生徒会による挨拶運動の実施 ⑥年度当初の巡視の徹底 ⑦駐輪場の点検及び整理整頓を継続して実施、自転車ステッカー貼付位置の統一の徹底 【ボランティア活動】 ①ボランティア活動の情報発信、奨励を引き続き実施 【部活動、生徒会活動】 ①生徒会活動のさらなる活性化の推進 【環境改善】 ①管理美化委員会のごみの計量を引き続き実施 ②空き教室の消灯点検等の実施 ③古紙回収の徹底の徹底 【安全教育】 ①各種安全教室のより効果的な実施時期・実施形態等の検討
3	キ ャ リ ア 教 育 の 充 実 と 進 路 実 現	① 専門的な知識・技術の 習得	【人材育成】 ・鳥工版デュアルシステムを3企業で実施 ・企業見学を工業関連企業20社・学校関係2校・公共施設4箇所を実施 ・インターンシップでは全体の事前説明会、科別説明会を実施しルール・マナーの指導の徹底 ・実習後の測定機器、実習室等の整理・整備・清掃は各科とも定着 ものづくりコンテスト中国大会の3部門に計4名が出場予定(中国大会は平成28年6月) ・資格検定ガイドブックを4月中旬に配布 ・計算技術検定では科と学年が連携、他の資格においても早期・放課後補習を多くの科で実施し、一人一資格取得は概ね達成したが、各種資格取得率、検定合格率に課題 (平成26年度実績:測量士補4名合格、計算技術検定合格率85%) (平成27年度実績:測量士補合格者なし、計算技術検定合格率60%) 【「工業技術基礎」(共通実習)の充実】 ・レポート内容の指導が必要 ・レポートを期限内に提出できない生徒があるが、各担当科で提出・再提出の指導を行い、改善傾向	【人材育成】 ・生徒の勤労観、職業観の育成 ・「5S」の定着 ・生徒の専門的な知識や技術の向上 ・卒業までに一人一資格以上を取得 【「工業技術基礎」(共通実習)の充実】 ・レポート内容と書き方の向上 ・レポートなど提出期限の遵守	【人材育成】 ・キャリア教育充実のため、鳥工版デュアルシステム、企業見学やインターンシップの内容を精選・充実 ・実習や課題研究を中心に5S(整理・整備・清掃・清潔・親)の指導 ・高校生ものづくりコンテストへの参加の奨励と指導 ・資格・検定について意識を高めるガイドブックを配布 ・全生徒の一人一資格の達成に向け、資格取得のための補習を実施 【「工業技術基礎」(共通実習)の充実】 ・レポート内容への赤ペン指導やコメント記入による指導の実施 ・提出期限について前日に確認の指示	【人材育成】 ①鳥工版デュアルシステムや企業見学を体験、概ね達成 ②資格取得や技能検定も概ね良好 ③SHR等を通じて補習、各種大会への積極的な参加の奨励 ④機械科では高校生ものづくりコンテスト(旋盤作業部門)中国地区大会6位入賞。 中国地区高校生技術競技会出場 ⑤制鋼・情報科では3級技能検定電子機器組立て前期13名中10名合格で77%の合格率。 高校生ものづくりコンテスト(電子回路組立部門)中国地区大会に優勝、全国大会出場予定 ⑥電気科では放課後や長期休業中に資格取得・基礎学力向上補習の実施、資格・検定を積極的に奨励したが目標未達成。高校生ものづくりコンテスト(電気工事部門)中国地区大会出場 ⑦建設工学科では測量士補に7名が合格、一府一県高校生ものづくりコンテスト(測量部門)。(材木加工部門)では、ともに中国大会へは進出できず目標未達成 ⑧漢字検定は受験者が少ない中、何とか本校での試験開催できた状態であったが、第1回の合格率は4割と上昇。第1回実用英語検定の合格率は約50% 【「工業技術基礎」(共通実習)の充実】 ①レポート内容への赤ペン指導やコメント記入などの添削の実施 ②提出期限の前日確認指示はできていないが、未提出者への提出指導の充実	【人材育成】 ①資格、検定取得が就職・進学に大きなプラスになることを認識させ、資格・検定の受験の促進 ②技能検定、高校生ものづくりコンテスト大会への参加の啓発指導の継続 ③後期技能検定の受験者を募り、合格へと指導、各種資格・検定を科職員でバックアップしながら補習等の指導の実施 【「工業技術基礎」(共通実習)の充実】 ①共通実習のレポート未提出者への指導は、工業学科4科が連携してルールを作成し対応 ②レポート提出期限前日のSHRで提出の指示を徹底
		② 勤労観・職業観の育成と 進路指導の徹底	【職業意識の育成】 ・インターンシップ、企業見学、応募前見学、社会人講師を実施、進路LHRを充実 ・外部就職ガイダンス等、進路行事を実施 【進路指導の徹底】 ・進路希望調査を1、2年生は3回、3年生は2回実施し、結果活用 ・理数工学科において、高大交流事業・大学訪問を実施 ・外部補習、個別指導、作文指導、サマーサイエンスセミナーを実施し、学力向上に努力 ・外部模試の結果から対策を考え指導法等に活用 ・2年生に面接ガイダンス、希望者に企業見学を実施 ・個別進路面接を2年生の3学期から開始 ・10人面接の実施時期を早期、各科の面接指導、担任面談がより充実 ・理数工学科3年生の進路検討会を7月・11月・1月に実施 ・国公立大学への進学は現役10名、浪人6名の計16名 ・就職の一回目選考試験合格率は82.2%(平成26年度82.4%)で、前年度とほぼ同値	【職業意識の育成】 ・地域や企業と連携した活動及び校内外の進路行事等を通じ、生徒の職業観、勤労意識の育成 【進路指導の徹底】 ・キャリア教育の視点に立ち、進路目標を早い段階で定め、目標に向けた日々の取組による生徒の学力及びコミュニケーション能力の向上 ・進学は10名以上が国公立大学に合格 ・就職は一回目の選考試験合格者率90%以上	【職業意識の育成】 ・働くことの意義や学びを意識したインターンシップ、企業見学、応募前見学、社会人講師の実施 ・資格取得の奨励と指導により職業意識を向上 ・社会人となることへの心構えを意識した外部就職ガイダンス等、各種進路行事への参加 【進路指導の徹底】 ・担任・科職員との面談により、生徒が目標とする進路の方向性を定め、日々の努力を支援 ・進路希望調査を定期的に行い、保護者と共に生徒の進路を検討、再確認 ・校内進路HPの構成を見直し、進路選択への有効な情報の提供 ・具体的な将来像を描くため、上級学校、企業と直接話しをする機会を多数設定 ・キャリア教育の全体計画を踏まえ、個々の事業がどのような進路指導を実施 ・ポートフォリオを活用し、日々の取組と将来の目標を定期的に振り返り、自己実現への意識を喚起 ・進路学習を計画に基づき実施 ・大学訪問を実施し、進路選択を具体化 ・補習や各種の指導、進路行事の実施 ・外部模試の結果を学習にフィードバック ・個別進路面接を2年生の3学期から開始、3年生4月時点での進路意識高揚 ・生徒が自己の目標を明確にし、自分の思いを伝えることができるよう面接指導を実施 ・3年生の8月に最終的な進路希望の決定	【職業意識の育成】 ①インターンシップ、企業見学、応募前職場見学、社会人講師等の実施 ②インターンシップ、企業見学会では事前に研修を行ってから実施 ③アルバイト就業事業に4名の参加 ④資格取得の奨励 【進路指導の徹底】 ①面接週間を設定して担任・科職員による面談の実施 ②進路希望調査を行い、懇話会で保護者とともに生徒の進路の検討、再確認 ③校内進路HPの構成を変更、進路選択への参考となる情報の提供 ④校内で、昼休憩や放課後に上級学校、企業と直接話しをする機会の設定 ⑤キャリア教育の全体計画を踏まえ、個々の事業がどのような進路指導の実施 ⑥進路行事等の資料をポートフォリオに綴じ、進路を考える上での資料を作成 ⑦理数工学科においては「理数工学Ⅰ」、「理数工学探究」への取組及び高大の意識を喚起 ⑧進路学習を計画に基づき実施 ⑨外部模試の結果を担任、教科へフィードバック ⑩10人面接を実施し、生徒の進路意識の高揚と自己表現力の強化 ⑪就職選考試験の一回目合格率は10月時点で目標の90%を達成	【職業意識の育成】 ①今後も企業見学前に研修を行ってから実施 ②冬季のアルバイト就業事業の生徒への紹介 ③継続した資格取得の奨励 【進路指導の徹底】 ①定期的に面接の機会を設定、担任・科職員による面談の実施 ②進路ガイダンスへの参加を保護者へも案内、保護者とともに生徒の進路の検討 ③校内進路HPで随時、進路選択への参考となる情報の提供 ④キャリア教育の全体計画を踏まえ、継続して個々の事業がどのような進路指導の実施 ⑤ポートフォリオの活用、進路を考える上での資料の作成 ⑥理数工学科においては研修旅行で県外大学の訪問、進路意識の醸成 ⑦進路学習を休講にするなどを実施 ⑧外部模試の結果を担任、教科へフィードバック、効果的な指導の検討 ⑨進路が確定した生徒に対し、卒業後に備えた取り組みが行えるよう指導 ⑩2年生には進路面接を実施、3年での進路決定への取り組みが円滑に行えるよう支援
③ 地域や産業 界との連携 強化	【人材育成】 ・各事業の実施により企業との情報交換等、連携を強化 【情報発信】 ・各事業の実施や学校HPの更新頻度が向上 ・鳥取県技能振興フェア参加、津ノ井地区文化祭での製作品展示やものづくり実演を実施 ・出前授業(実施校数4校)や中学生体験入学、鳥工TECの実施により科の魅力や中学生へPR 【地域との連携】 ・津ノ井地域懇談会や清掃活動、マナーアップ運動等の行事を通して、地域との連携を強化 【PTA活動の推進】 ・まちこみメールや保護者との連携により、学校行事への保護者参加は前年度並みの約472名(平成26年度実績:約486名)	【人材育成】 ・企業が求める人材や地域産業の担い手の育成 【情報発信】 ・地域や小学校・中学校等との交流と積極的な情報発信 【地域との連携】 ・本校の教育活動への理解の深化 【PTA活動の推進】 ・各事業への保護者の参加を促すことによるPTA活動の活性化	【人材育成】 ・各企業との連携を図り、企業見学、インターンシップなどを通じて企業ニーズに応える人材を育成 【情報発信】 ・出前授業や中学校体験入学、テクノボランティアの実施や各事業への出展、HP等での情報発信 ・HPやまちこみメールの活用により学校への保護者の関心を高め、行事への参加を促進 【地域との連携】 ①桜ヶ丘グリーンゾーンの清掃活動の保護者参加は例年並み、部活動生徒の参加者は増加 ②下半期の事業は継続して実施予定 【PTA活動の推進】 ①各事業の参加者は若干の増減があるものの概ね例年並み、科別PTAでは進路別講演会も実施	【人材育成】 ①企業見学、インターンシップなど各事業の実施、下半期も一部継続して実施 【情報発信】 ①出前授業や中学校体験入学など概ね反応は良好 ②HPの更新も昨年より増加 【地域との連携】 ①桜ヶ丘グリーンゾーンの清掃活動の保護者参加は例年並み、部活動生徒の参加者は増加 ②下半期の事業は継続して実施予定 【PTA活動の推進】 ①各事業の参加者は若干の増減があるものの概ね例年並み、科別PTAでは進路別講演会も実施	【人材育成】 ①2年生以下の企業見学の充実、生徒への意識の徹底 【情報発信】 ①テクノボランティアの継続実施や各事業への出展、タイムリーなHP等での情報発信 ②行事ごとの保護者への参加を促す1HPやまちこみメールの継続活用 【地域との連携】 ①テクノボランティア等の継続実施による地域貢献活動の充実 ②津ノ井地域懇談会、地域文化祭などへの積極的な参加と、地域とのより一層の交流 【PTA活動の推進】 ①PTA活動の拡大及び内容充実		